

プロセスとは何か

津 村 俊 充（南山短期大学助教授）

私達はさまざまなグループ——家族、友達仲間、会社、学校など——の中で多くの時間を過ごしています。多くの場合、それらのグループでは今話題になっていることは何かを理解することに注意が向けられ、何か一つの結論（集団決定）を出すことに努力が払われています。それらはグループ活動が持つ一側面です。グループ活動中に、たとえ自分では納得がいなくても、また何か引っかかる気持ちがあっても、「グループの中で起こっていること」には気づかなかったり、気づかぬ振りをして私達は過ごしてしまうことがあります。そして、一度結論が出されたり、グループ活動が終ると「グループの中で起こっていた」ことには目を向けようとしなくなるようです。

それでは、「グループの中で起こっていること」とは何なのでしょう？

1) プロセスとは何か？……………プロセスとコンテンツ

「グループの中で起こっていること」には、大きく分けて、以下の二つの側面があると言えるでしょう。

1. コンテンツ……………グループの話題とか、作業などの内容的な側面
2. プロセス……………グループの中で起こっている人と人との関係的過程

あるグループに「このグループの中で何が起こったか？」と尋ねると、話された内容とか決定事項などのコンテンツについての答えが返ってきます。このようなコンテンツとは別にグループ内では同時に自分の中や人と人との関係の中にいろいろな動きが生じています。それがここで呼ぶプロセスです。

ここで、実習「ブロック・モデル」のグループ活動を例にとり、その活動の中で起こる事柄をコンテンツとプロセスの2つの側面から見てみることにしましょう。

この実習は数十個からなる小片のブロックで構成されたモデルが別室に準備

されており、それを観察してきてそのモデルと同じものをグループ・メンバーによって作り上げるという集団活動です。この実習は観察してきていかに組み立てるかを話し合い計画する段階と、それを組み立てあげインストラクターによって評価を受けるといった2つのステップで構成されています。そして、その活動を通じて自分・他者・グループの動きを体験的に学ぼうとするものです。(詳細は Creative O.D. 『人間のための組織開発シリーズ I』行動科学研究会, 1976, p.99—109.をご覧ください。)

では、一体この実習の中でどんなことが起こっているのでしょうか。これはあくまで推測ですが、こんなことが起こっているかも知れません。

コンテンツ

プロセス

○実習の中で……

1) 最初の頃はみんな何をするか理解するために一所懸命指示書を読んでいた。

実は、

ある人はこのメンバーと一緒に仕事ができるかどうか不安で読むどころではなかった。

2) 作業を分担して進めた方が能率的だからということで、即座に分担作業に入る。

実は、

もう少し全体でどのように見てくのかを話し合いたかったが言わなかった。

3) 組立の時間が無くなるので、5分後には組み立てることになる。

実は、

自分の担当の所を組み立てるためにもう少し時間が欲しいと言ったのに無視された。

○ふりかえりの話し合いの中で……

4) 「みんな全員が同じように参加した」と話し合っている。

実は、

特定のメンバーだけがその事について話し合っている。

5) 「全員がよく聴き合っていた。」とAさんが言った。

実は、

AさんはBさんによく話し、BさんはAさんの話をよく聴いていた。視線が合うのはAさんとBさんとの間だけであった。

6) 「和気合い合いとして楽しいグループでした。」と報告された。

実は、

メンバーの中に浮かぬ顔で座っている人がいる。

以上は僅かばかりの例を挙げただけですが、「実は」が本当にそうであるかないかは憶測にすぎず、データが指摘されフィードバックされることによって真実を知ることが可能になります。

このように見てみると、コンテンツの流れと同時に、グループそして個々のメンバーの動き（感情、行動など）は刻々と変化していると言えるでしょう。グループの中では、人と人とが近付いたり、あるいは離れたり、各々のメンバーが果たす機能が流動したり、定着化したりします。また、グループの雰囲気も、ある時は緊張したり、緩んでしまったり、あるいは和やかになったりします。こうしたことが正にプロセスの側面であり、このプロセスをいかに取り扱えるかがグループの成長・個人の成長に大きく影響すると考えます。

2) どのようにプロセスを理解するか？……………データ

私たちはすべてのプロセスを把握することは不可能です。しかし、プロセスを理解するための観察可能なデータは私達の五感を通して得ることができるでしょう。

ここで、観察可能と言ったのは、より具体的情報（誰が、どのように）であることが必要だということです。データを収集する際の3つの視点を挙げておきます。それは、コミュニケーションのデータ、意思決定のデータ、雰囲気データのデータです。

- コミュニケーション……………誰が誰によく話したか？ 話した回数・時間は？
のデータ 誰が誰を支持したか？ きき合っているか？
どのように感情表出がなされているか？ など
- 意思決定のデータ……………決めるのに要した時間は？
誰が決めたか？—1, 2人の決定, 多数決, 合意など
- 雰囲気のデータ……………不安, 緊張感, 凝集性, 自由さなど

上述の視点からグループ活動の中での種々のデータを観察・収集して（指摘）、各グループ・メンバーがどのように見ているかを交換して（フィードバック）、メンバーと共に分析をして行くことができる時に、私達はより真実なプロセスを理解できるようになるわけです（仮設化）。そのように共により真実なプロセスを理解できる信頼の風土が生まれた時、すなわち「共に生きる」ようになる時、そのグループの活動は充実し、効果的な課題達成の能力が増進されたこととなります（成長）。

これは、いわゆる「体験学習」の一連の流れと同じものなのです。

最後に、他者の能力を生かすと共に自らの持つ潜在的能力を発揮し、私達がグループ——対人関係——の中で充実して生きるには何が必要なのでしょうか？

私達に求められているのは、観察者として状況を的確に捉える目を養うことと、同時に積極的にその状況に働きかけていく参加者になることと言えるでしょう。

